

# 令和8年度 野沢温泉中学校グランドデザイン



## 生徒を取り巻く環境

- スキーと温泉の恵みを生かした観光立村
- 保護者・村民の学校教育に対する期待・協力姿勢
- 「ふるさと野沢温泉村を誇りに思える村づくり」を掲げる勤勉で純真な村民
- 観光客、特にインバウンドの増加による、村内が活性化
- スキー人口減少による観光立村としての変化
- 一村一幼保・小・中学校、小中の各学年単級による人間関係の固定化

## 生徒の実態（これまでの学校評価、生徒アンケート等より）

- 素直で誠実な生徒が多く、落ち着いた学校生活を送っている
- 9割以上の生徒が学校生活は楽しいと回答
- 友だちの意見や考えが端末で見られるので、自分の考えに自信をもててきたと回答した生徒が増加している
- 基礎学力の定着に課題をもつ生徒が見られる
- 時間にルーズな生徒が見られる
- スマホ等によるメディア接触（ネット、ゲーム等）時間が多い
- 家庭学習への取り組みが不十分である

## 長野県教育振興基本計画（第4次）

## 学園教育目標

## 学校教育目標

## 願う生徒像と育みたい資質能力

## 特に大切にしたい力

### 「個人と社会のウェルビーイングの実現」

～ 一人一人の「好き」や「楽しい」、「なぜ」をとことん追求できる「探究県」長野の学び ～

「ふるさと野沢温泉村を心に刻み 心を世界に拓き 心豊かな人間性を育む教育」

心を沸き立たせ 雪の野を踏み分け 共に進もう 未来へ

### 【中学校で願う生徒像】

人・物・事に思いを寄せ、他者と協働して、夢や希望に向かって行動する子ども

#### 【小学校中高学年】

物や事に触れて、興味・関心を呼びおこし、自ら追究し友と共に学ぶ楽しさや喜びを見出していける子ども

#### 【こども園・小学校低学年】

豊かな自然の中で好んで体を動かし、友だちを呼び込んで遊びをつくり、学びを楽しんでいる子ども

- ◆ 自分や他者の多様性を大切にする力
- ◆ 自分の思いを豊かに表現する力
- ◆ 物事にしなやかにチャレンジし続ける力

### 【柱1】

学力の向上に向けた「授業改善」と「生徒自身の主体的な学びの支援」

#### 学びの充実・楽しさの実現

- 1 学びの楽しさ・充実感のある授業の実践
  - 個別最適かつ協働的な学びの充実
    - ・ 各教科で目指す資質能力の明確化
    - ・ 「教師が教える」から「生徒が学ぶ」へ
- 2 「子どもの視点」に立った授業改善
  - 学園模擬授業を通しての授業研究
  - ・ 教職員の学び合いの充実
  - ・ NINO 検査を生かした個別最適な学びへの支援
  - 信州型ユニバーサルデザインの研修
- 3 学びやすさ・学ぶ意欲向上のための工夫
  - ICT を用いた個別学習
    - ・ 生徒が、自分の学習進度や課題に沿って自分で学びを調整しながら学び続ける環境づくり
  - 「ぶなの子タイム」の取組
    - ・ 水曜日5校時終了後30分間、eライブラリ等に取り組む時間の設定
  - NRT・NINO テストを元にした学びの改善
    - ・ 診断結果から教師も生徒も自身の特性や効果的な学び方理を把握し、「学びやすさ」を実現
  - 家庭学習の充実
    - ・ 学校での学びと連動し、個に応じた家庭学習の充実

### 【柱2】

村の特長と野沢温泉学園の枠組みを活かした「魅力的な学びづくり」

#### 幼保小中一貫・高校連携教育の充実

- 1 幼保小中で取り組む一貫教育の推進
  - 英語学習
    - ・ 多くの外国由来の村民・観光客の中で、豊かな国際感覚の育成と英語表現力の向上を目指す
  - ふるさと学習
    - ・ 豊かな自然や文化、産業、地域の人々からふるさとを学び、愛し、支えようとする心を育てる
  - スキー学習
    - ・ スキー科授業を通して、村のスキー産業を担い支える「コンシェルジュ」を育てる
- 2 一貫教育のよさを活かした教育活動
  - ・ 生徒会と児童会・こども園との交流活動
  - ・ 校園間のスムーズな移行に向けたジョイント期活動
  - ・ 学園職員会議で、職員の思いの共有化
  - ・ 学園授業研究会（年2回）、夏期学園研修
- 3 地元高校との連携
  - ・ 飯山高との英語教育連携・職員による授業参観と合同教科会の実施・中高合同授業
  - ・ 下高井農林高との生徒間の学びの交流（中学生が課題研究発表会参観等）
- 4 海外の中学生との交流
  - ・ サンクトアントン・台湾龍門国民中生徒との交流活動の継続

### 【柱3】

家庭・地域と協働した「一人一人を認め合える、楽しい学校づくり」

#### 居場所があり、笑顔があふれる学校づくり

- 1 人権同和教育・特別支援教育の充実
  - ・ 差別をなくすため、共に行動できる人を増やし、育てるための学びの継続
  - ・ 授業、教室環境のユニバーサルデザイン化
- 2 生徒会活動への支援
  - ・ 生徒自身がよりよい集団づくりを目指す力を伸ばし、主体的な活動を実現するための生徒会活動の実現
- 3 部活動・スキー活動への支援
  - ・ 部活動支援員やスキークラブ、地域クラブ等と協働し、自分の好きなことに全力で取り組んで自分と集団を成長させるための、地域と共にある活動体制づくり
- 4 「生徒一人一人を、全職員で支える」生徒支援
  - ・ コクーンタイム等の生徒相談の充実
  - ・ 学級・学年を越え、職員全員が一人一人を支えるという意識改革
- 5 幼少期からの継続した見守りと支援
  - ・ フォロー会議や家庭児童相談員を中心にしての継続した見守りと支援
  - ・ LD等通級指導教室・ぶなの森での支援の充実
- 6 保護者・学園運営協議会との連携
  - ・ 「みんなの笑顔」のための交流学习、ふるさと学習、キャリア教育、PTA活動の改善
  - ・ 地域支援センターの活用(キャリア教育の充実)